

第 13 期第 3 回 長野市緑を豊かにする委員会 会議録

開催日時	令和 2 年 8 月 21 日(金) 午前 9 時 30 分から
開催場所	長野市役所第二庁舎 10 階 203 会議室
委員出席者	委員 13 名 (欠席 1 名)
傍聴者	市民 1 名 報道機関 3 名
事務局出席者	都市整備部長他公園緑地課職員 10 名
公開・非公開	公開
次第	会議次第 1 開会 2 委員長挨拶 3 長野市あいさつ 4 委嘱書交付・委員紹介 5 議事 1) 茶臼山動物園再整備事業実施状況の報告について 2) ながの花と緑大賞の見直しについて 6 報告事項 1) 長野市緑を豊かにする計画進捗状況について 7 その他 8 閉会

議事	【要旨】 1) 茶臼山動物園再整備の実施状況について 資料に基づき、事務局説明 (委員) 長野県には水族館がなく、新潟県に動物園がないということで新潟県からのお客様が大変多いと聞いている。長野市に動物園があるのは貴重なので充実した飼育環境を作ってほしい。オランウータンのメスについては、生涯、木から降りず木から木を渡り歩き過ごすという習性があるため長く居られる大きな木の環境作りを行ってほしい。 (委員) 近年、気象が厳しいのでその対応策や特別な配慮をしてほしい。茶臼山動物園は全国で人気が高い。ぜひ、子供だけでなく大人も来られるような企画を立ててほしい。それによって、寄付もさらに集まるのではないか。 (事務局) 気象への配慮は考えている。多くの動物園では檻の中にオランウータンが登るための鉄塔があるが、猛暑のため熱くなって触れないし登ることができない。茶臼山動物園では、園内で切った木を再利用していて、触れないほど熱くならないし、来園者も森の中の木陰で見られているよう考えている。 (事務局) 大人の方に来ていただける企画は必要だと感じた。お盆の時期に行われ「サマーナイトZOO」は多くの来園者があり、県外から来た客には目当てのレッサーパンダだけではなく、他に楽しめるような企画を指定管理者の開発公社にお願いしていきたい。 (委員) 動物園に行く機会はほとんどないが、先日、アルプス公園のイルミネーションのテレビCMを見て行こうという気になった。マスコミを使うと広まるし、長野市もテレビ等で広告してはどうか。 (委員) 今後、コロナの影響が続くと思うが、イベントで密集しない工夫を考える必要がある。現在の動物園は、高齢者
----	---

	やベビーカーに優しくない園内だと感じている。地形等の特色でやむを得ないと思うが、休憩できるベンチ等があればいいと思う。今後、サポーターから意見を聞き、フィードバックしてほしい。 (事務局) コロナの関係で3、4月当初は休園させていただいた経過があるが、現在は、開園していてソーシャルディスタンスの喚起や消毒をお願いしている。休憩場所については、スペースが限られるなかで平らな所に自然の木陰を利用しパラソルやベンチの設置を考えていきたい。サポーター等の意見を聞きながら快適な空間を考えていきたい。 (委員) 福祉の事で、長野養護学校の生徒さんや目や耳に障害のある人が触って分かる動物の模型を置く等、匂いや音を感じられる体験ができるようなものがあるといい。また、電動車椅子で坂道を移動しやすい配慮があるといい。幅広い利用者のことを考えてもらえるといい。 (事務局) 起伏の面では山の中腹にある茶臼山動物園の特徴でもあり弱点でもある。ユニバーサルデザインの観点からも重要事項であり、今後、園内を車椅子で移動できるよう、また、動物の質感を体感できるものを再整備の中で考えていきたい。 (委員) 既存の樹林を活用する試みは素晴らしいが、漆の木があるので注意し排除したほうがいい。 (事務局) 展示に支障が出ないよう展示場周りの木を切る必要があり、切ったら植生が変わってきていることを今年感じている。漆などにも配慮し管理していく。 2) 「ながの花と緑大賞 2020」審査内容等見直し提案について 資料に基づき、事務局説明 (議長) 実際にたたき台を出していただきました。ご質問やご意見を出していただきたい。
--	--

	(委員) これまでの委員会でも公開性ということがかなり言われてきたが、個人の家の奥まった庭を緑化していても市民が自由に見ることができない。市が緑化をしてほしいという方針なら公開性は関係ないが、市が顕彰するとなれば市民が作品を自由に見られなくてはならない。以前は、個人の素晴らしい庭がクローズアップされていたが、今は防災、環境に重きが移ってきている。そういったことを念頭に置いた上で賞に反映されていかななくてはならない。大賞の応募者の事だが、普通の市民が応募するものかと思っていたが、講師として指導する立場の人が応募してくるのは違和感がある。今後は応募要綱にプロかアマか明記してほしい。 (事務局) 防災、環境、公益性という言葉を新しく入れた。環境緑化に取り組んでいるということも応募の中に入れて積極的にやっていく。プロ、アマについては、何をもってプロとするのか市では判断は難しい。今まではプロアマ問わず市民の参加ということでやってきた。 (委員) 何らかの報酬を得ているのがプロではないか。 (議長) プロなら企業団体の部門に応募してもらうのはどうか。個人、ファミリーは一般、そんな分け方難しいですか。 (事務局) いいと思います。プロ、アマと分けて募集となると根底から内容を考え直す必要がある。 (委員) 市はこの賞について何を考えているのか、何のためにこの賞を作っているのか、市はどういう風になってほしいのかを明確にしてほしい。 (委員) 今回の見直し案を見て審査のやりにくさは相当解消されていると思う。プロを企業の部門に入れるのも一つの案かもしれないが、市民から見た場合、市が主催する講座等の講師が応募すると少し反発があるかもしれない。そんな事に配慮し作っていただきたい。もう一つ、せっかく 6 月に審査しているのに、広報ながのやホームページへは 10 月に発表。公表されれば見に行きたいと思っている人もいるのでもう少し早い発表があってもいいと思う。
--	---

	(事務局) 参加された皆さんがご苦労されて各賞を受賞されたと思うので、早い時期に公表できるよう対応したい。 (委員) 最近の暑さは尋常ではなく、季節のサイクルは狂ってきている。どんな手段にせよ地球温暖化を食い止めていかなければならない中、緑化についても年度のテーマを決めてはどうか。審査項目はたくさんあるが、今年はCO2の削減、また、今年は屋上緑化等テーマを定めてはどうか。市として少しでも地球温暖化に貢献してもらおうという思いをテーマで示して応募してもらうのはどうか。 (事務局) 審査項目等に年度ごとのテーマを入れていくことはできると思う。大きな改正になると思うので固めてから発展性を持たせていければと考えている (委員) 大賞に応募するのは難しいが、今年は緑のカーテン部門があるのでそこへ応募できると思う人もいる。ささやかな活動をしている人も救えるテーマを作ればいい。 (委員) ここに示された中に部門がないのに各部門賞とあるが、各特別賞とした方がいい。 (委員) 応募用紙の中で、活動の目的と内容、工夫というところは良くない。花壇のテーマという項目を作ってほしい。コンセプトが分かりやすくなる。 (委員) 受賞者への賞状はグループみんなで分けられない。その花壇が賞を取ったということが分かるようなものがほしい。活動を市民にアピールするためにも提案する。 (事務局) 景観賞のようなプレートということか。予算もあるので検討していく。 (委員) 建物は長く続くが花壇は活動の波もあり永続性を持たせるものではなく 2～3 年の短い期間耐えられるような物でいいと思う。
--	---

(委員) 花と緑大賞とは別に、長野市にはプロがこんなにて素晴らしいとかこの通りを通れば楽しめる花壇があるなど場所を紹介していくことを並行して考えてほしい。

(議長) ありがとうございました。議事は以上で終了させていただきます。

(事務局) 委員の皆様には大変お忙しい中、ご出席賜りありがとうございました。また、長時間ご熱心に論議いただき感謝申し上げます。以上をもちまして第 13 期第 3 回長野市緑を豊かにする委員会を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。